

上川林業アップデート事業 ～でんでん太鼓で木の魅力を伝えよう～

北海道旭川農業高等学校 森林科学科3年 長原壮汰

背景と目的

本校森林科学科は上川町天幕に演習林を持ち、実習を行っています。この上川町は町の約94%を森林が占め、かつては「林業の町」として栄えていました。しかし、過疎化や少子高齢化の影響により林業は衰退し、現在では木材工場もなくなっています。そのため、上川町が林業の町であったことを知らない世代が増えています。また、身近に豊かな森林があるにもかかわらず、その価値を意識する機会が少ないという課題があります。そこで、本校・上川町・北海道大学北方圏フィールド科学センターの3者が連携して、上川林業アップデート事業を展開し、町産材を使う「地材地消」を生かした木製品の開発に取り組み、上川町に新たな魅力を作る活動をしました。



実習の様子



選木した木を運搬しました

製品の決定

上川町役場から「20～40代の女性に喜ばれる商品を開発したい」という依頼がありました。そこで、子どもが楽しむ姿を見ることや、親子で一緒にものくりができる商品であれば喜んでもらえると考え、木製おもちゃをテーマにしました。

おもちゃの中でも自分で動かして音を出す遊びは小さな子どもでも楽しめる、成長してからも遊べることから、音を生かした玩具としてでんでん太鼓を制作し、親子で作ってもらうワークショップを展開することにしました。

研究と成果

製品のポイント

一般的な、皮を使ったでんでん太鼓ではなく、木材の魅力を伝えるため、太鼓部分を木製にしました。試作を重ねる中で、板を箱状にすることで音の響きが良くなることが分かり、さらに中に材料を入れることでマラカスとしても遊べる新たなおもちゃにしました。

マラカスの中に入れる材料は、小豆・黒大豆・コーヒー豆とし、上川町から提供していただいた町産の規格外農作物や商品を活用することで、農業や食品リサイクルへの理解にもつながるようにしました。

デザインの特徴

当初は動物の形も検討しましたが、上川町らしさを表すため、町のマスコットキャラクター「かみっきー」をデザインに採用しました。かみっきーの上半身をモチーフにし、腕を叩く紐、おなかを太鼓部分に見立てたデザインとしました。形の切り抜きや模様は、量産を考えレーザー加工で制作しています。

製品名

製品名をでんでん太鼓の「でん」と、振ったときの「シャカシャカ」という音から、製品名を「でんしゃか太鼓」と名付けました。



でんしゃか制作キット

ワークショップの開催

完成した製品キットを利用し、二日間のワークショップを行いました。ワークショップに合わせて、マラカスの中に入れる材料と腕に見立てた紐を制作者が選べるようにし、つくるのが楽しくなるようにしました。

12/21に上川町かみんぐホール、1/13に旭川市イオン旭川西店でワークショップを実施しました。親子合わせて30人以上の方に制作ワークショップを体験していただき、上川町について知ってもらうことができました。



かみっきー



完成したでんでん太鼓



ワークショップの様子①



ワークショップの様子②

まとめと展望

上川町産材を利用して上川町をPRできるオリジナル木工製品を開発することができました。また、考案した「でんしゃか」を使用したワークショップで上川町内外で、上川町と森林関連産業をPRできました。

今後も木製製品を通し、森林や林業の魅力を伝えていきたいと思ひます。

